

## 第10回「日本医師会 赤ひげ大賞」受賞者紹介

(順列は北から：敬称略)

### 「赤ひげ大賞」受賞者（5名）

#### ■岩手県医師会推薦 <sup>うえた</sup> <sup>としろう</sup> 植田 俊郎 医師 67歳 植田医院 院長



医療資源の乏しい大槌町で、平成2年より31年にわたって地域住民の健康管理に人生を捧げ、町の小中学校の学校医を務めるなど、児童生徒の健康管理にも多大な尽力をしてきた。東日本大震災の際には、甚大な被害を受け、4階建ての診療所・自宅も津波に飲み込まれたが、自衛隊に救出されて避難先に到着するなり救護所を開設して医療活動を行い、不眠不休で診療を続けた。現在でも人々に寄り添いながら、地域の復興と医療の再生に努力を続けている。

#### ■秋田県医師会推薦 <sup>いちかわ</sup> <sup>しんいち</sup> 市川 晋一 医師 70歳 仙北市西明寺診療所、仙北市桜木内診療所 所長



地域で唯一の医師として、平成12年に赴任以来、診療所における医療の質の向上を目指してきた。「365日24時間地域住民の健康のため」をモットーに、外来・訪問・休日夜間診療にも携わり、緩和ケアや終末期の看取りでは常に駆け付けられる態勢をとっている。また、多職種連携による地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築や、後進の育成にも尽力。仙北市温泉療養研究会会長として入浴事故を研究する傍ら、温泉浴マイスター制度を創設し、地域おこしにも貢献している。

#### ■埼玉県医師会推薦 <sup>すきがら</sup> <sup>みのる</sup> 鋤柄 稔 医師 74歳 シャローム病院 院長



地域でのホスピスケアを含めた人生の終末期ケアを行うべく医院を開業。文字どおり24時間365日体制で、朝は4時に起床し、食事や風呂の最中も電話が掛かってくれば飛び出し、常に患者に寄り添ってきた。24時間対応での往診体制も構築しており、「全ては地域と患者さんのために」を礎に、多職種連携のためのICTツールなども積極的に取り入れている。後進の育成にも努めながら、現在も骨身を惜しまず地域医療に尽力している。

#### ■神奈川県医師会推薦 <sup>おおいし</sup> <sup>まさゆき</sup> 大石 雅之 医師 67歳 大石クリニック 院長



精神科医として30年以上にわたり、患者の命を守るべく全身全霊で戦っている。全国的にもギャンブルや覚せい剤の依存症の人が多くと言われる地域で、専門外来として平成3年にクリニックを開業。依存症患者の裁判書類の作成、出廷における患者のケアに加え、警察官や刑務所の職員へ病像の講義や説明を行ってきた。その他、刑を終えて出所した患者のケアのため、精神科グループホームや寮を立ち上げ、住居や就職の援助など社会復帰の手助けもしている。

#### ■熊本県医師会推薦 <sup>さとう</sup> <sup>たちゆき</sup> 佐藤 立行 医師 94歳 佐藤医院 院長



昭和27年より、68年間の長きにわたり、地域住民の医療・保健・福祉の向上に努めた。無医地区であった戸馳島に、「身近なかかりつけ医が診察し、必要に応じて大きな病院を紹介することで島民達は安心できる」と考え、医院を開業。真摯な態度で地域住民の健康増進に尽力し、日曜祭日の当番医としても開業以来従事している。その他、小中学校の学校医として、児童生徒の健康管理並びに学校保健会の活動に携わるなど、学校保健の推進にも努めている。

### 「赤ひげ功労賞」受賞者（13名）

<sup>たて</sup> 楯 秀貞 (北海道)	<sup>いまむら</sup> 今村 憲市 (青森県)	<sup>まるやま</sup> 丸山 博 (千葉県)	<sup>すずき</sup> 鈴木 慎太郎 (東京都)
<sup>よしだ</sup> 吉田 まゆみ (福井県)	<sup>つゆき</sup> 露木 弘光 (山梨県)	<sup>かわい</sup> 河合 俊 (静岡県)	<sup>さいじょう</sup> 西城 英郎 (三重県)
<sup>あかぎ</sup> 赤木 重典 (京都府)	<sup>たなか</sup> 田中 みすず (大阪府)	<sup>えんざん</sup> 円山 忠信 (広島県)	<sup>ほしこ</sup> 星子 卓 (福岡県)
<sup>きはら</sup> 木原 晃一 (鹿児島県)			

年齢は2022年1月6日現在

## 「日本医師会 赤ひげ大賞」について

「日本医師会 赤ひげ大賞」は、公益社団法人日本医師会と産経新聞社が主催となり「地域の医療現場で長年にわたり、健康を中心に地域住民の生活を支えている医師にスポットを当てて顕彰すること」を目的として、平成 24 年に創設したものである。

【主 催】日本医師会、産経新聞社

【後 援】厚生労働省、フジテレビジョン、BSフジ

【協 力】都道府県医師会

【特別協賛】太陽生命保険株式会社

### 【対 象 者】

病を診るだけでなく、地域に根付き、その地域のかかりつけ医として、生命の誕生から看取りまで、さまざまな場面で住民の疾病予防や健康の保持増進に努めている医師。日本医師会及び都道府県医師会の会員で現役の医師（ただし、現職の日本医師会・都道府県医師会役員は除く）。

【推薦方法】各都道府県医師会会長が 1 名を推薦

### 選 考 委 員

羽毛田信吾（昭和館館長、前宮内庁参与）  
向井 千秋（東京理科大学特任副学長）  
檀 ふみ（俳優）  
ロバート・キャンベル（早稲田大学特命教授）  
河合 雅司（作家・人口減少対策総合研究所理事長）  
伊原 和人（厚生労働省医政局長）  
釜菴 敏 （日本医師会常任理事）  
城守 国斗（日本医師会常任理事）  
鈴木 裕一（産経新聞社取締役）  
乾 正人（産経新聞社執行役員論説委員長）

（敬称略）

【表彰式】令和 4 年 3 月 18 日（金）午後 6 時～ 帝国ホテル 東京 （予定）